



桜満開の春を楽しみに記念の植樹

▲自分達の持ち場に手分けして苗木を運ぶ参加者

2月18日に西溪公園で桜ふれあい植樹会が行われました。西溪公園は桜の名所として、県内外からたくさんの観光客でにぎわいますが、ここ数年園内の桜の老木化が進み、桜の花が少なくなっていました。今回、財団法人日本さくらの会から苗木の助成を受け、また植樹には「多久市ふるさと応援寄附」を活用し、新しい桜を植えることができました。

植樹会に参加した中部小4・5年生66人とボランティア80人は、植樹の方法の説明の後、「ソメイヨシノ」の桜の苗木125本を大人と子どもがペアとなり植樹し、子どもたちは植えた桜に自分のネームプレートをつけました。参加した5年の山田さんは「急な斜面に植えるのが難しかったけど、大人の人と協力できて楽しかった」と話し、塚本校長は、「大きくなってお父さんお母さんが植えたと自分たちの子どもに伝えられれば、いい思い出になる。子どもたちに思い出を作っていたいただきありがとうございました」と話しました。

桜ふれあい植樹会

1日だけの手づくりレストラン大好評！

第5回女山大根まつり

西多久町で栽培される伝統野菜・女山大根を使った1日だけの手づくりレストラン「女山大根を味わう会（主催：西多久を考える会）」が2月6日、西多久公民館で行われました。

県内はもとより福岡市などから参加した42人は、地元の「幡船の里運営協議会」や郷土料理研究会のメンバーが調理した大根サラダ、切干大根の炒め物、天ぷら、ゼリーなど女山大根を使った15品の料理や、今年度の一村逸品大賞で金賞に輝いた女山大根のアイス『乙女のころ』を堪能。女山大根料理は古くから西多久町の冠婚葬祭や村祭りによく食べられていたもので、今年は大根を加工した切干大根を使った混ぜごはんもあり「女山大根はいろいろな調理方法があってびっくり。彩りも綺麗で味もおいしい」と参加者は大満足。

また、学校給食センターからは女山大根の酢の物を岸川まんじゅうに挿んだ『多久バーガー』を調理持参し、市内の材料を使った地産地消活動を紹介しました。

まつりでは女山大根の重量当てクイズ（3本で約14kg）や、品評会も行われました。



▲「味わう会」では、多彩な大根料理がテーブルに並びました

あま〜い あま〜い バレンタイン大作戦

2/12

市内小学4～6年生を対象に手作りチョコ教室「バレンタイン大作戦」が、中央公民館で行われました。5町公民館の合同企画で、公民館主事が講師やサポート役を務め「やわらか生チョコ」と「チョコ蒸しパン」を作りました。

期待と不安でいっぱいの子供達でしたが、チョコ作りが始まると真剣な顔つきに。家族・友達・好きな人など、渡す相手への思いを込めて一生懸命に作っていました。調理・包装・後片付けなど友達と協力して、楽しさや難しさを感じられる良い経験になったようです。みんなの思いがしっかり伝わってたらいいですね！



佐賀の小田和正『西溪中の長尾先生』特技は図書館にも

1/26

フジテレビの新年特番『そっくりものまね！紅白歌合戦スペシャル』で、「佐賀県の小田和正」とMCや審査員をうならせた長尾太さん。

実は多久市内にお住まいで、西溪中の図書館司書だったので。小田和正さんそのものの優しい声で「歌えることが人生の喜び。小田さんの歌まねは特技の一つです」と。「西溪中の図書館に勤務して2年。きれいに分類して、プレゼンテーションなどを考えるのが楽しい」の言葉どおり、室内には随所に手づくりの工夫が満載で、歌声以外にも多彩な特技をお持ちの先生でした。

